

(参 考 資 料)

重陽の節句（9月9日）

人日の節句（1月7日）、桃の節句（3月3日）、端午の節句（5月5日）、七夕の節句（7月7日）とともに「五節句」のひとつで、江戸時代には不老長寿や繁栄を願う行事として最も親しまれていました。特に庶民の間では「お九日」と呼ばれて親しまれ、秋の収穫祭とあわせて祝っておりました。長崎でおなじみの「長崎くんち」もその名残りとする説が有力で、新暦で10月（旧暦では9月）に開催されます。

また、この五節句には、それぞれその行事にちなんだ植物があり、1月7日は七草、3月3日は桃、5月5日は菖蒲、7月7日には笹があてられ、9月9日には菊の花が主役となって「菊の節句」とも呼ばれています。

重陽の節句の行事

古代中国では、菊には邪気をはらい、長生きする効能があると信じられていました。こうした菊の効能にあやかって、「菊酒」や「菊の被せ綿」、「菊湯」、「菊枕」、「菊合わせ」などの行事が行われていたそうです。

- 「菊酒」 : 菊を浸したお酒を飲む
「菊の被せ綿」 : 菊に綿を被せておき、夜露で湿った綿で体を拭いて長寿を祈る
「菊湯」 : 湯船に菊を浮かべて入浴する
「菊枕」 : 菊をつめた枕で眠り、菊の香りで邪気をはらう
「菊合わせ」 : 今で言う菊の品評会

県内の菊生産

本県さくらの産出額は、令和4年には29億円となっており、県内花き類の全産出額（82億円）の約35%を占めています。また、栽培面積は158haで全国第5位となっています。

さくらは県内各地で栽培されていますが、各産地とも優れた栽培技術により高品質なさくらが生産されています。生産されたさくらは、地元市場はもとより、関西、関東を中心とした各市場に出荷されており、いずれの市場からも高い評価を受けています。近年では、こうした評価を背景にして、特に県央地域と島原半島地域で生産規模の拡大が進んでいます。

■全国の状況（令和4年）

①栽培面積

順位	都道府県	栽培面積 (ha)
1位	愛知県	1,280
2位	沖縄県	664
3位	福岡県	195
4位	鹿児島県	191
5位	長崎県	158

②出荷本数

順位	都道府県	出荷本数 (百万本)
1位	愛知県	437.7
2位	沖縄県	216.5
3位	福岡県	68.3
4位	鹿児島県	58.4
5位	長崎県	47.2

③産出額

順位	都道府県	産出額 (億円)
1位	愛知県	223
2位	沖縄県	61
3位	福岡県	39
4位	鹿児島県	32
5位	長崎県	29

※農林水産省花き出荷統計

長崎県花き振興協議会の概要

県内市町、農業協同組合、花き市場、花き生産者等により構成された長崎県を代表する花きの組織。平成10年7月31日設立。本会として各種花き振興対策に取り組むとともに、6専門部会（カーネーション、洋らん、きく、鉢物、ばら、草花）と花き青年部を組織し、それぞれ活発に活動している。

長崎県花き振興協議会きく部会

県内きく生産農家により平成11年度に設立。県内の花き関係機関・団体等の協力の下、年末用の電照菊立毛品評会の開催や、きくの消費拡大PR、九州、全国のきく生産者との情報交換等の活動を積極的に行っている。

現在、66戸の県内きく生産者により構成されている。